

仙台市中心部商店街 (仙台市中心部商店街活性化協議会)

宮城県仙台市青葉区中央・本町・一番町

各商店街間の連携で、東北随一の 繁華街にさらなる賑わいを



取組の背景

観光客が観光の起点として 利用できる商店街へ

当協議会の加盟する8商店街は、いずれも仙台市の中心部に位置しており、東北随一の繁華街として賑わいを見せている。もっとも、仙台を訪れる国内外の観光客は、仙台市の中心部を通過点として周辺の観光地へ向かうことから、商店街に滞在する時間は短い傾向にある。中長期的な視点から、さらなる消費拡大に向けて、仙台独自の商品や商店街の魅力を広く発信することに加え、中心街周辺の観光スポットのPR等を通じて、来街する国内外の観光客が観光の起点として滞在できるような場所とすることが求められている。

一方で、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う外出

自粛要請は、各商店街にも大きな影響を与え、4月の緊急事態宣言発出以降、商店街の売上低迷が深刻化している。コロナ禍のもと、例年開催している「仙台初売り」等の各種イベントについて、いかに感染対策と両立させたいうえで開催していくかについても課題となる。

さらに、コロナ禍においてECサイト利用による消費が増加している。利便性においては元々ECサイトが有利であることもあって、商店街の店頭売上が減少していることから、今後の課題として、新たな販売方法（個々の店舗を集めた「バーチャル商店街」によるネット販売等）の検討を通じ、「来て楽しい、来られない人も楽しく買い物ができる」商店街をいかに築いていくかの取組が求められている。

取組の内容

自治体等との連携と支援の 輪で賑わいを取り戻す

仙台市や仙台商工会議所等が行う誘客・観光施策や中小企業支援、商業振興施策との相乗効果が生まれるよう密接に連携を図り、新たな消費喚起に繋がる取組を実施し、商店街の売上回復促進を図っている。

特に、コロナ禍のもとで売上が低迷している飲食店を支援するため、当協議会が独自運営するクラウドファンディング・プラットフォーム「まちくるファンド仙台」にて、2020年4月に「愛する店ドットコム」プロジェクトや、県内の観光宿泊施設を応援する「明日へのチケット」プロジェクトを立ちあげ、支援金の募集を行った。この動きに伴い、経産省補助事業で整備した大型LEDビジョンを活用しての情報発信も実施した。その結果、協賛企業やメディア等さまざまな団体から協力を得ることができ、支援の輪が広がった。

加えて、商店街で利用できる3割増商品券の発行のほか、毎年正月に開催している「仙台初売り」についても、コロナ禍でも安心安全なイベントとするため

「STOP!コロナ対策ステーション」を各商店街に設置し、福袋を事前予約とし密にならない工夫を行い、新しい形の賑わいを推進し、売上回復に努めている。

さらに、中長期的な視点から消費拡大を図る取組として、大型LEDビジョンでの情報発信や対話型AIサイネージの機能強化、仙台独自の商品を国内外に発信するインフルエンサーマーケティング等に取り組んでいる。特に大型LEDビジョンでは、各商店街の魅力紹介、地元高校生の部活動紹介やコロナ感染予防動画等、充実した情報発信に努めている。



感染予防を徹底して開催された「仙台初売り」

取組の成果

来街者の増加と、感染予防との両立に向けて

歩行者通行量調査(中心部商店街内の6か所平均(金曜日))によると、直近2019年の調査で35,406人と協議会設立前の2016年における32,194人と比較して約10%増加した。

加えて、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を徹底するため、各種ガイドラインに基づき、各店舗の従業員、来店客の双方に対し感染症対策を講じるとも

に、大型LEDビジョンを通じて感染予防動画の配信等の対策を行い、一定の効果が顕れている。



大型LEDビジョン「まちくるビジョン」

実施体制

当協議会は、2017年に設立された「一般社団法人まちくる仙台」が事務局となり、中心部商店街でのイベント実施やウェブサイトを通じた情報発信等を行い、観光客等の来街者をサポートする拠点にもなっている。百貨店や交通事業者等の賛助会員や、

商工会議所や行政等の協力会員、その他の有識者に、幅広い分野で相談できる体制を整えている。

協力会員である仙台市や仙台商工会議所、仙台観光国際協会、仙台市産業振興事業団等が実施する誘客・観光・商工振興施策等との相乗効果が生まれるよう、日頃から密接に連携が図られており、必要とされる取組を迅速かつ機動的に実施できる体制が十分にとられている。

キーパーソンからのコメント

「商都仙台」の顔として、人の集まる魅力あふれる商店街へ

仙台市中心部商店街はJR仙台駅から続くT字型のアーケード商店街で、老舗店舗からブランドショップまであらゆる業態の店舗が立ち並び、「商都仙台」の顔として市民に親しまれてきました。

当協議会では商店街内でのさらなる賑わいの向上を目指して、国家戦略特区適用による公共空間を利活用した各種イベントの開催や、地域型クラウドファンディングの運営等、リアルとウエ

ブの両面で多様な事業を展開してきました。

2020年には新たな情報発信手段として、エリアの中心に位置する場所に大型LEDビジョンを整備しました。ここでは観光案内やイベント情報はもとより、地元プロスポーツ紹介や感染症予防への注意喚起等、さまざまなコンテンツを放映し、日々魅力の発信に努めております。

仙台市中心部商店街活性化協議会
事務局長 石井光二

商店街の概要

東北随一の繁華街を形成する仙台市中心部の各商店街同士の連携はこれまで十分とは言えない状況にあったが、仙台市中心部商店街活性化戦略研究会での議論等を経て、2017年7月、仙台駅西側の8商店街振興組合を中心に仙台商工会議所、河北新報社、仙台市等が連携し、仙台市中心部商店街活性化協議会を立ちあげた。協議会は、中心部商店街の魅力発信と賑わいの向上に努め、自立的発展に繋げるためのエリアマネジメントを推進する役割を果たす。設立後は観光消費創出等の活性化事業に取り組み、地域住民はもとより国内外の観光客等、幅広い層の来街者を集めている。

所在地 宮城県仙台市青葉区中央・本町一丁目
人口 約29万人(仙台市青葉区)
電話 022-395-6101
FAX 022-395-6102

URL <https://machi-kuru.com/>
会員数 8商店街
店舗数 814店舗(小売業358店、飲食業221店、サービス業97店、その他138店)

商店街の類型 単独型
主な客層 主婦、サラリーマン
／50歳代、40歳代